

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：21601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10541

研究課題名(和文) 高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する質指標の開発

研究課題名(英文) Development of outpatient nursing care quality indicators for elderly patients with diabetes

研究代表者

齋藤 史子 (Saito, Fumiko)

福島県立医科大学・看護学部・講師

研究者番号：40769486

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：高齢糖尿病患者への外来看護を実践している糖尿病看護認定看護師および慢性疾患看護専門看護師を対象にした面接調査により、外来看護実践として情報収集・アセスメント項目、情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入、高齢糖尿病患者を取り巻く部門および関係職種との連携・協働が明らかになった。特に認知機能の見極めが重要であり、外来看護師は認知機能を踏まえた療養生活への介入を実践していた。さらに、面接調査結果を基に質問紙調査を行った。外来看護実践113項目のうち50項目の実施率は80%を超えた。実施率60%未満の項目は、睡眠中の低血糖の見極めやACPに関すること、地域連携に関することであり今後の課題と考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢糖尿病患者は合併症だけでなく、認知症やフレイルなどの老年症候群を来たしやすく、患者の生活の質が著しく低下する。しかし、外来看護実践の具体的な方略の一般化はされておらず、支援は個々の外来看護師の力量に委ねられ手探りの状況であった。本研究により、糖尿病看護認定看護師および慢性疾患看護専門看護師の面接調査から高齢糖尿病患者への外来看護実践が明確になった。また、外来看護実践の実態から睡眠中の低血糖の見極めやACPに関すること、地域連携に関することなど今後の課題も示唆された。以上のことより、高齢糖尿病患者への外来看護実践が明文化されたことは、外来看護の質の向上に貢献するものであると考える。

研究成果の概要(英文)：An interview survey was conducted with Certified Nurse in Diabetes Nursing and Certified Nurse Specialist in Chronic Care Nursing who practice outpatient nursing for elderly diabetic patients. As a result of the interview survey, "information collection/assessment items", "information-based interventions for elderly diabetic patients and their families", and "coordination and collaboration with departments and related professions surrounding elderly diabetic patients" were identified as outpatient nursing practices. In outpatient care for elderly diabetic patients, it is important to assess cognitive function. Outpatient nurses practiced interventions for recuperative life based on cognitive function. In addition, a questionnaire survey based on the interview survey was conducted. The implementation rate of 50 out of 113 outpatient nursing items exceeded 80%. Less than 60% of the implementation rate was related to checking for hypoglycemia during sleep, ACP, and community collaboration.

研究分野：慢性疾患をもつ高齢者への外来看護実践

キーワード：高齢者 外来看護 糖尿病

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平均在院日数の短縮化、在宅移行の推進、患者の高齢化、慢性疾患患者の増加、侵襲性の高い検査・治療など、外来における医療を取り巻く環境の変化に伴い、より良い医療提供体制の構築が喫緊の課題となっている。特に複数の疾患を持ち、医療依存度が高い高齢者に対しては、入院治療に至らない在宅療養生活への支援が必要であり、外来看護師には個々の患者のニーズに応じた質の高い看護ケアの提供が求められている。しかし、その担い手である外来看護師の配置基準は、医療法施行規則において患者 30 名につき看護職 1 名であり昭和 23 年から変わっていない。外来への配置は、育休明けの看護師、臨時・パートタイム看護師、病棟勤務が困難な看護師等、配置構成が多様であり、業務量・質・モチベーションの個人差が大きい。このような背景から外来看護師の看護実践能力は様々であり、求められている患者のニーズに応じた質の高い外来看護との差が生じている状況があると考えられる。

外来において在宅療養生活への支援が特に必要な患者として、複数の疾患を持つ医療依存度の高い高齢糖尿病患者が挙げられる。超高齢社会を迎え、高齢者の糖尿病の有病数が増加している中、高齢糖尿病患者は合併症だけでなく、老年症候群といわれる認知症、うつ、ADL 低下、サルコペニア、転倒、骨折、フレイルなどを来しやすく、患者の生活の質が著しく低下する。そのため、外来看護師は個々の高齢糖尿病患者のニーズを把握し、セルフケア維持への教育的支援、家族や社会資源などのサポート体制の調整、チーム医療や地域連携の推進など、地域包括ケアシステムにおける要として外来看護実践能力を発揮することが重要であると考えられる。しかし、高齢糖尿病患者に関する先行研究から老年症候群や低血糖予防、食事療法の実行やインスリン自己注射手技、要介護状態悪化などの多くの課題が指摘される一方で、具体的な方略の一般化はされておらず、支援は個々の外来看護師の力量に委ねられ手探りの状況である。これらのことから、外来看護師の多様な配置の中でも、一定の外来看護の質を担保するために高齢糖尿病患者への外来看護実践を一般化していく必要性がある。

2. 研究の目的

本研究では、外来看護の水準の維持・向上と看護の受け手である高齢糖尿病患者への看護の質の保証の取り組みとして、高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する質指標の開発を行うことを目指した。具体的には、糖尿病看護認定看護師、慢性疾患看護専門看護師の高齢糖尿病患者への実践から、外来看護実践の過程とその結果を明らかにし、外来看護の質指標作成に資する外来看護実践の実態を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 高齢糖尿病患者への外来看護を実践している認定・専門看護師の面接調査

糖尿病看護認定看護師および慢性疾患看護専門看護師による「高齢糖尿病患者への外来看護実践の過程とその結果」を明らかにした。

(1) 対象：

高齢糖尿病患者に対して外来看護を実践している糖尿病看護認定看護師、慢性疾患看護専門看護師 約 10 名

(2) データ収集方法

日本看護協会に登録されている認定・専門看護師が所属している病院に対し、郵送にて研究協力の説明および依頼を行った。承諾が得られた研究対象者約 10 名に対し、プライバシーが守られる個室で半構成的面接調査を行った。面接時間は 1 回 60 分程度とし、1~2 回程度実施した。

(3) データ収集内容

これまで行った「高齢糖尿病患者への外来看護実践の過程とその結果」についての事例を挙げ自由に語ってもらった。事例は 2 名ないし数名挙げてもらい、高齢糖尿病患者への外来看護実践がよい看護実践だった(よい結果を患者にもたらした)場合とよい看護実践だったとは言い難い場合について語ってもらった。面接調査は、対象者の基本属性として、外来勤務の経験年数、糖尿病外来の実践経験、保有資格、当該資格経験年数、勤務体制等を含め、面接内容は許可を得て IC レコーダーに録音した。

(4) データ分析方法

得られた面接内容は逐語録を作成した。分析は、内容分析の手法を用い、[高齢糖尿病患者の外来看護実践] に関連する看護師の語りの中で意味のある 1 文脈を抽出した。1 文脈の中からコードを抽出し、コード化した文脈からラベル、サブカテゴリ、カテゴリと付与していった。

2) 本調査の原案の作成

認定・専門看護師への面接調査で得られた結果を基に、高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する実態調査の原案を作成した。

3) 高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する実態調査

本調査では、高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する質指標の原案の検討を行うために、外来看護師を対象に質問紙調査を行った。

(1)対象:糖尿病関連の外来で勤務をしている外来看護師 約 2,400 名

(2)データ収集方法

無記名自記式質問紙調査。対象病院は、一般社団法人日本糖尿病学会のホームページ内で糖尿病専門医が登録されている病院・診療所および糖尿病看護認定看護在籍施設とした。1 病院に対し 2 名の外来看護師を対象とした。質問紙調査票は郵送にて配布した。

(3)調査内容

対象者の属性(看護師経験年数、外来勤務経験年数、糖尿病関連外来の実践経験年数、保有資格) 対象者の所属病院(特定機能病院、地域医療支援病院、一般病院、診療所) 対象者の勤務体制

外来看護実践として、情報収集・アセスメント 61 項目、情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入 43 項目、高齢糖尿病患者を取り巻く関係職種および部門との連携・協働 7 項目について、「いつもしている」「ときどきしている」「どちらともいえない」「ときどきしている」「いつもしていない」の 5 件法で回答することとした。

(4)データ分析方法:記述統計量を算出した。

4. 研究成果

1)高齢糖尿病患者への外来看護を実践している認定・専門看護師の面接調査

(1)対象者の概要

対象は、糖尿病看護認定看護師・慢性疾患看護専門看護師 8 名であり、糖尿病外来経験年数は、4~15 年であった

(2)語られた 18 事例の属性

8 名の対象者は、1 名あたり 2~3 名、合計 18 事例について語った。認知機能が低下していた高齢者は 10 事例だった。家族構成は、独居 4 名、高齢夫婦世帯が 8 名だった。糖尿病歴は、ほとんどの高齢者が 10 年以上だった。

(3)高齢糖尿病患者への外来看護実践

情報収集・アセスメント

外来看護師は、高齢糖尿病患者への情報収集・アセスメントとして、【高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を見極め】【高齢糖尿病患者の認知機能の見極め】【高齢糖尿病患者の在宅療養生活の状況から介入の見極め】【社会資源を活用すべきかの見極め】【緊急を要する介入の必要性の見極め】を実践していた(表 1)。

表 1 情報収集・アセスメント

情報収集 アセスメント	高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を見極め	高齢糖尿病患者の人物像や行動特性を見極める 高齢糖尿病患者・家族の糖尿病療養に関する考え方を見極める
	高齢糖尿病患者の認知機能の見極め	高齢糖尿病患者の認知機能を見極める
	高齢糖尿病患者の在宅療養生活の状況から介入の見極め	検査データから今回の受診までの血糖コントロールの状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の低血糖の発生状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の在宅でのインスリン注射の実施状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の在宅での服薬の実施状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の在宅での食事状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の運動の状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の定期受診の状況から介入の必要性を見極める
		高齢糖尿病患者の療養に対する負担感への介入の必要性を見極める
高齢糖尿病患者の日常生活に関するセルフケア能力から介入の必要性を見極める		
社会資源を活用すべきか の見極め	家族の患者へのサポート力から介入の必要性を見極める 高齢糖尿病患者・家族の社会資源の活用に関する考え方を確認する	
緊急を要する介入の必要性 の見極め	緊急を要する介入の必要性を見極める	

情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入

外来看護師は、情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入として、【高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を踏まえた介入】【高齢糖尿病患者の認知機能を踏まえた在宅療養生活への介入】【家族や社会資源の活用への介入】【高齢糖尿病患者に違和感を察知した時の介入】を実践していた(表 2)。

高齢糖尿病患者を取り巻く部門および関係職種との連携・協働

外来看護師は、高齢糖尿病患者を取り巻く部門および関係職種との連携・協働として、【病院内における部門および関係職種との連携・協働】【病院・地域間における部門および関係職種との連携・協働】を実践していた。

表2 情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入

情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入	高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を踏まえた介入	高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を踏まえた介入
	高齢糖尿病患者の認知機能を踏まえた在宅療養生活への介入	高齢糖尿病患者・家族に血糖コントロールおよび低血糖に関する提案や説明をする
		療養行動の振り返りから高齢糖尿病患者と一緒に生活改善を考える
		高齢糖尿病患者の加齢変化に応じた療養行動への提案や関わりをする
		高齢糖尿病患者の認知機能に応じたインスリン注射の技術指導を行う
	家族や社会資源の活用への介入	高齢糖尿病患者の療養に対する負担感に応じた介入をする
高齢糖尿病患者のセルフケア能力に応じた具体的な工夫の提案をする		
高齢糖尿病患者に違和感を察知した時の介入	糖尿病療養をサポートする家族への介入をする 社会資源活用へ提案および意思決定支援への介入をする	
高齢糖尿病患者に違和感を察知した時の介入	高齢糖尿病患者に違和感を察知した時の介入	

2) 本調査の原案の作成

認定・専門看護師への面接調査で得られた結果を基に、情報収集・アセスメント項目、情報に基づいた患者・家族への介入、高齢糖尿病患者を取り巻く部門および関係職種との連携・協働に沿って分類し、高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する実態調査の原案を作成した。

3) 高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する実態調査

(1) 対象者の属性

1,200施設2,400名に調査票を配布し、回収数は932部(回収率38.8%)であった。そのうち明示的な同意を得られなかったものや欠損値を含むものを除外し、639部を分析対象(有効回答68.6%)とした。

対象者の看護師経験年数は平均23.1(±8.57)年、外来経験年数は平均9.2(±6.75)年、糖尿病関連外来経験年数は平均8.4(±6.03)年であった。保有資格は、日本糖尿病療養士357名(55.9%)、糖尿病看護認定看護師163名(25.5%)、慢性疾患看護専門看護師8名(1.3%)であった。

(2) 外来看護実践の実態

各項目の実施率(「いつもしている」「ときどきしている」と回答したものの割合)は、以下の通りであった。

情報収集・アセスメント

【高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方の見極め】に関する9項目は75.8~92.3%、【高齢糖尿病患者の認知機能の見極め】の7項目は84.0~92.0%、【高齢糖尿病患者の在宅療養生活の状況から介入の見極め】の26項目は33.6~94.1%、【社会資源を活用すべきかの見極め】の13項目64.0~91.4%、【緊急を要する介入の必要性の見極め】の6項目は79.5~90.0%の実施率であった。情報収集・アセスメント項目で、実施率が60%以下だった項目は、「睡眠中の低血糖の有無を判断する」「内服薬の残量を持参してもらい残量から服薬状況を確認する」「使用済みの注射器等を持参してもらい残量から確認する」であった。

情報に基づいた高齢糖尿病患者・家族への介入

【高齢糖尿病患者の人物像や糖尿病療養に関する考え方を踏まえた介入】に関する7項目は83.3~94.0%、【高齢糖尿病患者の認知機能を踏まえた在宅療養生活への介入】の23項目は50.0~94.5%、【家族や社会資源の活用への介入】の10項目は54.7~81.5%、【高齢糖尿病患者に違和感を察知した時の介入】の5項目は34.7~96.6%の実施率であった。実施率が60%以下だった項目は、「患者・家族に将来の療養生活について考える機会を設ける」「外来受診時に看護師の注射手技を繰り返し見てもらう」「外来受診の度にインスリン注射手技を実践してもらう」「次の外来日までの間に電話をし在宅での状況を確認する」であった。

高齢糖尿病患者を取り巻く部門および関係職種との連携・協働

【病院内における部門および関係職種との連携・協働】の4項目は70.6~77.0%、【病院・地域間における部門および関係職種との連携・協働】の3項目は29.6~64.2%の実施率であった。実施率が60%以下だった項目は、「ケアマネジャーと患者の在宅療養に関する情報共有をする」「地域を含めた多職種によるカンファレンスでサービス内容の検討をする」であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤史子
2. 発表標題 高齢糖尿病患者への外来看護実践の過程とその結果
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	結城 美智子 (Yuki Michiko) (20276661)	北海道大学・保健科学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	鄭 佳紅 (Tei Keiko) (20363723)	青森県立保健大学・健康科学部・教授 (21102)	
研究分担者	坂本 祐子 (Sakamoto Yuko) (20333982)	福島県立医科大学・看護学部・教授 (21601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	猪俣 利恵 (Rie Inomata)	福島県立医科大学・会津医療センター・副師長 (21601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------